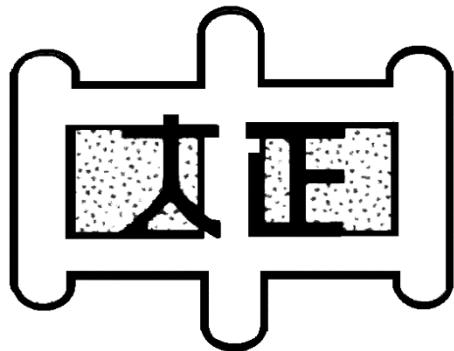


2023年度

運営に関する計画

(最終評価)



大阪市立大正中央中学校

2023年4月

2023年度 運営に関する計画

【学校経営の重点】

◇ 生きる力・夢みる力の育成

— かしこく やさしく たくましく —

【本市の教育における最重要目標】

- (1) 安全・安心な教育の推進
- (2) 未来を切り拓く学力・体力の向上
- (3) 学びを支える教育環境の充実

【本校の教育目標】

- ◇ 役立つ人
- ◇ 自ら伸びゆく人
- ◇ 朗らかな人

《具体的方策》

- 1 基礎的・基本的な内容の確実な定着と、生徒の活発な意見をもとにした学習活動を充実し、自ら考え、意欲的に解決する力を育む
- 2 豊かな体験的活動を通して、個性を尊重し、互いに認めあう集団の育成を図り、思いやる心や感動する心を育む
- 3 自らの健康や体力に関心をもち、健康でたくましい心身を養い、自律的な生活習慣や態度を育む
- 4 今日的課題に対応する教育を充実させ、自らの判断で、生きるべき道を選択し、決定するとともに、社会の変化に的確に対応できる力を育む
- 5 地域・保護者の学校支援体制を構築し、家庭や地域の教育力を活かした教育活動を進めるなかで、地域の伝統行事への積極的な参加とともに、地域の一員である自覚と感謝する心を育む

《めざす生徒像～3つの“C”》

- ◇ 進んで学ぶ生徒 “Challenge”
- ◇ なかよく助け合う生徒 “Communication”
- ◇ 明るく元気な生徒 “Cheerful”

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【現状】

本校では、年度ごとに全国学力・学習状況調査等、各種調査及び学校評価アンケート（保護者・児童）における調査結果の分析を踏まえ、大正中央中学校「学校教育改善アクションプラン」を策定し、教育活動を進めている。今年度は**2つの「きょういく」（共育・響育）**をテーマに、「**確かな学力の育成**」・「**自尊感情・自己有用間の向上**」・「**健康で心豊かな心身の育成**」を取り組んでいく。

（2023年度 「大正中央中学校 学校教育改善アクションプラン」 参照）

令和4年度チャレンジテスト（+1年チャレンジテスト plus）における**本校平均正答率の対大阪市平均比**は、以下の通りであった。

※（ ）は対大阪府平均比

	国語	社会	数学	理科	英語
3年生	0.96 (0.95)	0.84 (0.83)	0.89 (0.87)	0.91 (0.91)	0.80 (0.79)
2年生	0.84 (0.83)	0.78 (0.75)	0.71 (0.69)	0.86 (0.86)	0.70 (0.68)
1年生	0.87 (0.86)	0.93	0.89 (0.88)	0.98	0.84 (0.82)

平均正答率については、すべての学年で大阪市平均を下回ったが、1年生の理科については、**大阪市平均に近づいた**。

また、校内の生徒アンケートにおいて、「**自ら課題を見つけて、家で勉強している**」では、肯定的な回答をしている生徒の割合は **3年：47.6% 2年：17.7% 1年：48.1%** と、家庭学習においては2年生に課題が見られた。

校内の生徒アンケートにおいて自尊感情の項目である、「**あなたは、自分にはよいところがある**」および「**将来の夢や目標を持っている**」において肯定的な回答をしている生徒の割合は、それぞれ **65.0%、65.5%** と、少しではあるが**昨年度よりも向上**している。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から、**男子のハンドボール投げ、女子の握力は全国平均を超えており、男子の長座体前屈は大阪市平均を超えている**。しかしながら、男女とも反復横とび、立ち幅とびは**大阪市平均から大きく下回っている**。

【課題】

これまでの調査結果から、本校では**学力向上に大きな課題**がある。この課題に対して、**生徒の課題に向き合う力の育成**に取り組んでいくとともに、**家庭学習の定着**に努める必要がある。

生徒の体力における課題改善のために、体育の授業の始まりの準備運動を丁寧に行い、継続させることで生徒の柔軟性、瞬発力、体幹を鍛えていくとともに、**普段から運動ができるような環境**を整えていく。

また、各種アンケート結果から「**生徒の自尊感情・自己有用感**」の項目や、「**学校が楽しい**」の項目が他の項目よりも低いことがわかる。そのため、本校では「**2つのきょういく『共育』（共に学び育む教育）『響育』（生徒の心に響く教育）**」を教育方針として、「**大正中央中学校 学校教育改善アクションプラン**」に取り組んでいく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・2025年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
- ・2025年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を令和4年度～令和7年度内で前年度より減少させる。
- ・2025年度末の校内調査において、前年度の不登校生徒の改善の割合を令和4年度～令和7年度内で前年度より増加させる。

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・2025年度の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を35%以上にする。
- ・2025年度の中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、2022年度に対していずれの学年も0.1ポイント向上させる。
- ・2025年度の大阪市英語能力調査におけるC E F R A 1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を50%以上にする。
- ・2025年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を60%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・学習用端末を活用した家庭学習を週1回実施する。
- ・2025年度内に「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を40%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（中学校）

- ・校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。（前年度 84.5%）
- ・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
(前年度 10.4%)
- ・年度末の校内調査において、前年度の不登校生徒の改善の割合を前年度より増加させる。
(前年度 33.3%)

学校の年度目標

- ・生徒アンケートにおける「学校の規則や社会のルールを守っている」の項目について、最も肯定的な「あてはまる」と答える生徒の割合を60%以上にする。（前年度 51.5%）
- ・生徒アンケートにおける、「自分にはよいところがある」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を前年度以上にする。
(前年度 65.0%)

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（中学校）

- ・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を30%以上にする。
(前年度 26.5%)
- ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度よりも0.05ポイント向上させる。
- ・大阪市英語能力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を前年度以上にする。
(前年度 34.4%)
- ・年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を52%以上にする。
(前年度 51.0%)

学校の年度目標

- ・年度末の校内調査における「学校の時間以外の家庭学習」について、1時間以上の生徒の割合を40%以上にする。
(前年度 平日 53.5% 休日 40.9%)
- ・**全国体力・運動能力、運動習慣調査**において、3種目を大阪市平均にする。
(前年度 3種目)
- ・年度末の校内生徒アンケートにおける「毎朝、朝食を食べている」について、最も肯定的な「あてはまる」と答える生徒の割合を前年度以上にする。
(前年度 70.0%)

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（中学校）

- ・学習用端末を活用した家庭学習を2週に1回以上実施する。
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を25%以上にする。
(前年度 24.14%)

学校の年度目標

- ・保護者アンケートにおける、「学校はICT機器を活用した教育に取り組んでいる」の項目について、最も肯定的に回答する生徒の割合を前年度以上にする。
(前年度 23.1%)

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（中学校）

- ・校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。（前年度 84.5%）
→ 83.1%（肯定意見 100%）
- ・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
(前年度 10.4%)
→ 8.3%（18名/216名）
- ・年度末の校内調査において、前年度の不登校生徒の改善の割合を前年度より増加させる。
(前年度 33.3%)
→ 20.0%（3名/15名）

学校の年度目標

- ・生徒アンケートにおける「学校の規則や社会のルールを守っている」の項目について、最も肯定的な「あてはまる」と答える生徒の割合を60%以上にする。（前年度 51.5%）
→ 62.3%
- ・生徒アンケートにおける、「自分にはよいところがある」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を前年度以上にする。
(前年度 65.0%)
→ 65.6%

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（中学校）

- ・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を30%以上にする。
(前年度 26.5%)
→ 28.6%
- ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対応比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度よりも0.05ポイント向上させる。
(前年度 2年：国0.84 数0.71 1年：国0.87 数0.89)
→ 3年：国0.82 数学：0.72 2年：国 数
- ・大阪市英語能力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を前年度以上にする。
(前年度 34.4%)
→ 27.7%
- ・年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を52%以上にする。
(前年度 51.0%)
→ 48.1%

学校の年度目標

- ・年度末の校内調査における「**学校の時間以外の家庭学習**」について、1時間以上の生徒の割合を40%以上にする。
→ 平日 58.0% 休日 37.6%
(前年度 平日 53.5% 休日 40.9%)
- ・**全国体力・運動能力、運動習慣調査**において、3種目を大阪市平均にする。
→ 男子 1種目（上体起こし…大阪市、全国を上回る）
(前年度 3種目)
- ・年度末の校内生徒アンケートにおける「**毎朝、朝食を食べている**」について、最も肯定的な「あてはまる」と答える生徒の割合を前年度以上にする。
→ 74.0%
(前年度 70.0%)

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（中学校）

- ・**学習用端末を活用した家庭学習を2週に1回以上**実施する。
- ・「**学校園における働き方改革推進プラン**」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を25%以上にする。
→ 33.3%
(前年度 24.14%)

学校の年度目標

- ・保護者アンケートにおける、「**学校はICT機器を活用した教育に取り組んでいる**」の項目について、最も肯定的に回答する生徒の割合を前年度以上にする。
→ 30.8%（肯定意見 82.1%）
(前年度 23.1%)

本校では、保護者及び生徒アンケートを対象とした学校評価アンケート結果の分析を踏まえ、「**大正中央中学校 学校教育改善アクションプラン**」を策定し、教育活動の向上をめざし取り組みを進めている。今年度は「**2つのきょういく**」（『**共育**』（**共に育む教育**）『**響育**』（**心に響く教育**）をテーマに、教育活動の改善に取り組んできた。

【安全・安心な教育の推進】

- ・「**いじめ事案**」については、教職員が日々、子どもたちのようすを観察し、子どもとの対話を深めた生徒理解に取り組んできることと、毎月実施した「**いじめアンケート**」や保護者や地域との連携により把握することができた。
- ・年度初め、教職員を対象に「**いじめ対応についての研修会**」を実施、また、「**いじめ・不登校対策委員会**」を月1回開催し、各学年の事案について共通理解をするとともに、対応について検討した。その結果、**確認できたすべてのいじめの疑いのある事案について、早期に対応することができた**。しかしながら、まだ学校生活に不安を抱えている生徒も見られるため、引き続き見守りを行っていく必要がある。
- ・今年度の**不登校生徒（年間30日欠席）**については、18名の生徒が対象として挙げられる。今年度途中より開設した「**ステップ教室**」で生徒の居場所を確保し、不登校改善に取り組んでいく。

- ・生徒アンケートの**自尊感情・自己有用感の項目**が、他のアンケート項目の結果よりも低い結果となっているので、次年度も引き続き「**大正中央 Dream Project**」など、生徒の心に響く**「響育」活動**を実践していきたい。
- ・「**大正中央 Dream Project**」今年度実績
 - 4月 松竹新喜劇 → 2年生鑑賞、体験活動
 - 5月 大阪弁護士会 → 1年生いじめ予防教室
 - 6月 野口みづき（女子マラソン アテネオリンピック金メダリスト）
 - 全校生徒へ講話 3年生技術指導
 - 7月 大阪プロレス（第3教育ブロック「探究・読解PJ」 → 3年生へ講話
 - 11月 having Fun Dance Session（プロ講師によるダンス指導）
 - 1, 2年生技術指導
 - 12月 谷本歩実（女子柔道 63kg 以下 アテネ・北京オリンピック金メダリスト）
 - 2年生技術指導
 - 3月 内藤尚之（元ヤクルトスワローズ投手）
 - 全校生徒へ講話 1年生技術指導

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・今年度の「全国学力・学習状況調査」において、相変わらず全国平均を下回っている。
- ・課題であった「家庭学習時間」については、放課後学習の場所や教材を整備することで、放課後学習の利用生徒も増加し、**1時間以上学習する生徒の割合も向上している**。
- ・今後も継続して話し合い活動を通じて深い学びにつなげる学習展開を研究していく必要がある。特に、総合の時間においては**探究学習**が求められており、グループ活動等で意見を交えながら学習していく機会を増やすしていかなければならない。
- ・生徒アンケートの結果から、本校では**体を動かすことを肯定的に捉えている生徒が多い**。しかしながら、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果、**大阪市平均を超える項目が男子で1種目しかない**ことが課題である。来年度に向けて、生徒が継続的に体を動かすことのできるような行事の計画を立てたり、多くの生徒が昼休みに運動場で体を動かせたりするような工夫をしていかなければならない。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ICT 機器の活用については、校内研修を実施しながら、各教科での学習用端末の活用も進んできた。
- ・今年度は、豊中市からの視察や教育フォーラムにおいて本校の取組を発表する機会があった。
- ・教職員の働き方改革については、「働き方改革プロジェクト」で議論した課題の解消に向けて、①**校時の見直し**、②**職員朝礼の廃止**、③**完全下校時間の設定**、④**退勤時間の設定**、⑤**校務分掌表の見直し（新たに健康教育部の設置）**、⑥**会議・委員会の実施方法の見直し**等、改革を進めた結果、教職員の超過勤務時間の削減に取り組むことができた。また、研修会を実施することで、教職員の意識の改革も行うことができた。

大阪市立大正中央中学校 2023年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】（徳）</p> <p>全市共通目標（中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。 →83.1%（肯定意見 100%） 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 →8.3% 年度末の校内調査において、前年度の不登校生徒の改善の割合を前年度より増加させる。 →20.0% <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートにおける「学校の規則や社会のルールを守っている」の項目について、最も肯定的な「よくあてはまる」と答える生徒の割合を60.0%以上にする。 →62.3% 生徒アンケートにおける、「自分にはよいところがある」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を前年度以上にする。 →65.6% 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現 徳】</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめの防止や早期発見・対応には学校すべての教職員が自らの問題として受け止め、取り組んでいくことが重要と考え、学校全体で生徒観察、定期的（少なくとも学期に1回）いじめアンケートを実施し、いじめの早期発見に努めるとともに、いじめを許さない環境を育てる。 不登校生徒について、主任会、生活指導部会等で常に議論し、具体的対応策のもと学年、生活指導部を軸とし、外部機関とも連携し組織的な対応に取り組む。 「いじめ不登校対策委員会」を活性化させ、対応策の議論を重ねる。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの「いじめは、許せないことだと思う」において、最も肯定的な「よくあてはまる」と答える生徒の割合を85.0%以上にする。 →83.1%（肯定意見 100%） 	

取組内容②【基本的な方向 1 安心・安全な教育環境の実現 **徳**】

- ・学校生活を通して、集団規律の確立を心掛け、あいさつ・言葉遣い・身だしなみ等、生徒の規範意識を高める教育に取り組む。
- ・集団生活における基本的な生活習慣態度を身につけ、ルールを守るとともに、正しい判断と行動ができるよう育成する。

B

指標

- ・生徒アンケートの「**学校の規則や社会のルールを守っている**」において、最も肯定的な「よくあてはまる」と答える生徒の割合を60.0%以上にする。(前年度 51.5%)
→62.3%

取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成 **徳**】

- ・学校教育活動全体を通じた道徳教育活動を進め、人権教育、特別活動など、様々な体験を通して、生徒同士が互いの違いを認め合い、高め合う教育を実施する。

B

指標

- ・生徒アンケートの「**命や人権の大切さについて考えることができている**」において、最も肯定的な「よくあてはまる」と答える生徒の割合を前年度以上にする。
(前年度 61.5%)
→63.6%
- ・生徒アンケートの「**友達の気持ちを考え、友達を大切にしている**」において、最も肯定的な「よくあてはまる」と回答している生徒の割合を65.0%以上にする。
(前年度 62.3%)
→58.4% (肯定意見 94.8%)

取組内容④【基本的な方向 2 豊かな心の育成 **徳**】

- ・自身がかけがえのない存在であると実感できるよう、学校教育活動だけではなく家庭・地域等との連携を図り、自尊感情、自己有用感を高める。

B

指標

- ・生徒アンケートの「**自分にはよいところがある**」において、肯定的に答える生徒の割合を前年度以上にする。
(前年度 65.0%)
→65.6%
- ・生徒アンケートの「**道徳の授業を通して、自分の成長を実感できている**」において、肯定的に答える生徒の割合を前年度以上にする。
(前年度 77.5%)
→76.6%

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現 徳 】	<p>・「いじめは、許せないことだと思う」において、最も肯定的な「よくあてはまる」と答えた生徒の割合は 83.1% (-1.9%)、「あてはまる」を含んだ肯定的と答えた生徒は 100% (+0.5%) であった。今年度は生活指導部や各学年において外部機関に依頼し、セミナーを複数回行ったこと、全校集会で「いじめ」についての講話を生徒会を中心に複数回実施するなどしたため、肯定的な回答(100%)につながった。</p>
取組内容②【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現 徳 】	<p>・「学校の規則や社会のルールを守っている」において、最も肯定的な「よくあてはまる」の回答が 62.3% (+10.8%) と昨年度に比べて増加した。本年度も、昨年度に続き生徒会を中心に行なった校則の見直しを行った。継続的に見直しを行うことにより、生徒たちの規則やルールに対しての意識向上につながったと思われる。</p>
取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成 徳 】	<p>・生徒アンケートの「命や人権の大切さについて考えることができている」において、最も肯定的な「よくあてはまる」と答えた生徒は 63.6% (+2.1%)と増加、「友達の気持ちを考え、友達を大切にしている」において、最も肯定的な「よくあてはまる」と回答した割合は、58.4% (-3.9%) と減少したが、「あてはまる」を含んだ肯定的な意見は 94.8%であった。命や人権については、いじめに関する取り組みから意識の向上につながったが、友達(相手)の気持ちを理解し、大切にするところまでつなげることが課題となった。</p>
取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成 徳 】	<p>・生徒アンケートにおける「自分にはよいところがある」において、肯定的に答えた生徒は 65.6% (+0.6%) とわずかに増加、「道徳の授業を通して、自分の成長を実感できている」において、肯定的に答えた生徒の割合は 76.6% (-1.1%) と減少となった。学校教育活動において自尊感情、自己有用感の向上、道徳授業を通して成長を感じるような機会を増やす、内容の見直しが課題である。</p>
次年度への改善点	
取組内容①【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現 徳 】	<p>・いじめは許せないことだと肯定的な回答が 100%を達成した。しかしながら、SNS でのトラブル、いじめの事案が発生した。いじめは許せない、よくないことだと認識しているが、対人関係をうまく構築できていないと思われる。いじめや対人関係トラブルの早期発見・防止に努め、「いじめ不登校対策委員会」をより活性化させ、議論を重ね、大きな事案に発展しないよう継続的な取り組みが必要である。</p>
取組内容②【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現 徳 】	<p>・「学校の規則や社会のルールを守っている」において、最も肯定的な「よくあてはまる」の回答が 62.3% (+10.8%) と昨年度に比べて増加した。生徒会を中心に行なった校則の見直し、全校集会や生徒議会で、議論や講話を重ねたことが、増加した大きな要因であると考えられる。</p> <p>今後も継続し、規則やルールについて考え、守る人間性を育みたい。</p>
取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成 徳 】	<p>・「友達の気持ちを考え、大切にしている」については減少となったが、肯定的な回答は 94.8% と低い数字でない。相手の気持ちを考え、大切にする教育的機会を増やしたい。</p>
取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成 徳 】	<p>・「自分にはよいところがある」は校内年度目標にも掲げているが、大きな増加はなかった。自尊感情、自己有用感、自己肯定感など、自身がかけがえのない存在だと時間できるような教育的活動の方法を模索することが課題である。</p>

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓くための学力・体力の向上】（知）</p> <p>全市共通目標（中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、<u>最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を30%以上</u>にする。 →28.6% 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対応比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度よりも0.05ポイント向上させる。 →3年：国0.84→0.82 数学：0.71→0.72 大阪市英語能力調査におけるC E F R A1レベル相当以上の英語力を有する中学生の割合（4技能）を前年度以上にする。 →27.7% <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における「学校の時間以外の家庭学習」について、<u>1時間以上の生徒の割合を前年度以上</u>にする。 →平日 58.0% 休日 37.6% 	B

<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	<p>進捗 状況</p>
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科の授業だけではなく、様々な活動の中でコミュニケーション活動に取り組む。 調べ学習や課題解決を通して自分の考えを深めたり、広げたりする学習を行い、思考・判断したことを説明し、それらを基に議論する力を養う。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、<u>最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を30%以上にする。</u> (前年度 26.5%) <p>→28.6%</p>	<p>B</p>
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日々の教育活動全般において、多読・速読など、言語活動の充実を図る。言語活動・理数教育を通して「主体的・対話的で深い学び」の授業を展開し、思考力・判断力・表現力等の育成に取り組む。 また、各教科において小テストや単元テストに取り組み、学習を振り返る機会を短期的にすることで、生徒の学びに向かう姿勢を醸成する。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対応比を、同一母集団において経年的に比較し、<u>いずれの学年も前年度よりも0.05ポイント向上</u>させる。 (前年度 2年：国 0.84 数 0.71 1年：国 0.87 数 0.89) <p>→3年：国 0.84→0.82 数学：0.71→0.72</p>	<p>B</p>
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】</p> <ul style="list-style-type: none"> C－NETとの授業連携を強化し、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」の英語3技能の強化に取り組む。 また、習熟度別授業を活用し、生徒一人ひとりのリーディング・スピーチングの機会も増やし、「読むこと」「話すこと」の英語2技能の強化に取り組む。 「書くこと」においては、家庭学習や小テスト・単元テストなどで強化に取り組んでいく。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪市英語能力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を前年度以上にする。 (前年度 34.4%) <p>→27.7%</p>	<p>B</p>
<p>取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の予習・復習等に活用できる家庭学習教材を教科ごとに作成、提供し、自主学習の習慣を定着させることで、自ら学ぶ態度を養い、学力の向上を図る。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートにおける「学校の時間以外の家庭学習」について、<u>1時間以上の生徒の割合を前年度以上</u>にする。 (前年度 平日 53.5% 休日 40.9%) <p>→平日 58.0% 休日 37.6%</p>	<p>B</p>

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】	<p>・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の最も肯定的な「思う」と回答した生徒の割合は 28.6% であった。肯定的な回答としては 80.5% と昨年度のアンケートよりも 2.0% 上昇した。 今年度は、学習者用端末を用いた授業研究に特化したこともあり、教職員の意識が薄れてしまっていた部分もあったが、学習者用端末を用いながらペア学習、グループ学習に取り組む様子が伺えたことが肯定的な回答の上昇に繋がったと考えられる。</p>
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】	<p>・令和5年度の「中学生チャレンジテスト」における各教科正答率の大阪府平均との差について、3年生は（国語：0.84→0.82、数学：0.71→0.72） となった。夏季休業期間中における補充学習の実施、図書館学習室の利用者の増加、総合を教科に振り替えるなど、結果が上昇する要因はあったが、国語の結果は伴わなかった。</p>
取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】	<p>・大阪市英語能力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）は 27.7% であった。指標となる前年度 34.4% を上回ることはできなかつた。 英語を苦手とする生徒が多い中でも、グループワークや C-NET を活用した授業などを実施し、英語力の上昇に努めた。</p>
取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】	<p>・年度末の校内調査における「学校の時間以外の家庭学習」について「1時間以上」と回答した生徒の割合は平日 52.6%、休日 37.6% となっている。平均して指標を達成しているが、休日の割合に関しては指標を割り込んでいることが現状である。各学年における割合から、3年生の受験に向けた家庭学習の充実が見られる一方で、2年生の休日における家庭学習の時間の少なさが顕著であることが伺える。</p>
次年度への改善点	
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】	<p>・学習者用端末を活用しつつ、個人からグループ、グループから全体、全体から個人へと振り返る学習ループの形成を浸透することで、自分の考えの広がりを実感できる授業研究へつなげていく必要がある。</p>
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】	<p>・「中学生チャレンジテスト」における各教科正答率の大阪府平均との差について、来年度も、夏季休業期間中における補充学習の実施、図書館学習室の利用推進、総合を教科に振り替えていく必要がある。さらに、今年度取り組んだ読解力向上に向けた朝学習の時間を継続していきたい。</p>
取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】	<p>・4技能の向上に向けて、C-NETとの連携をさらに深め、より英語力が身につく授業研究の必要がある。C-NETとの授業以外においても、ネイティブの英語に触れる機会を増やし、英語を身近に感じられるような工夫をしていきたい。</p>
取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】	<p>・昨年度から引き続き、中だるみの時期である第2学年においての家庭学習の充実を図ることが今後の課題である。各教科等から、日々出される課題に加え、週末の家庭学習としてオンライン学習ツールを活用することが課題解決につながると考える。定期テスト前の課題ではなく、日々の活用を進めることでより一層の家庭学習の充実につなげていく必要がある。</p>

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓くための学力・体力の向上】（体）</p> <p>全市共通目標（中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を<u>52%以上</u>にする。 →48.1% <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、<u>3種目を大阪市平均以上</u>にする。 →男子1種目（状態起こし…大阪市、全国を上回る） 年度末の校内生徒アンケートにおける「毎朝、朝食を食べている」について、最も肯定的な「あてはまる」と答える生徒の割合を前年度以上にする。 →74.0% 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体力テスト、体育的行事（体育大会等）を日ごろの体育の授業や部活動での成果を發揮する場として位置づけ、体育委員を中心とした主体的活動に取り組む。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、<u>3項目以上大阪市平均を上回る。</u> 生徒アンケートの「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好き」において、<u>肯定的な回答をする生徒の割合を前年度より向上させる。</u>（前年度 78.0%） ➡48.1% 	B
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】</p> <ul style="list-style-type: none"> 関連する教科や総合的な学習の時間、特別活動等を通じて、健康に関する指導を実施するとともに、感染症の予防のための日常指導や薬物乱用防止、環境問題など現代的な課題について正しい知識が身につくような取り組みを行う。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの「自分の健康に気をつけている」において、「よくあてはまる」と回答する生徒の割合を前年度以上にする。 （前年度 51.3%） ➡39.6%（肯定意見 84.4%） 	C
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の防災活動や災害時の助け合い活動を理解し、日常の備えや的確な判断のもと、自ら進んで行動できる態度を育成する取組を行う。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの「震災や火災などの災害や、事件・事故の発生時に、身を守るために対処法がわかっている」において<u>肯定的な回答をする生徒の割合を 80%以上</u>にする。 ➡96.8% 	B
<p>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活委員会で、健康的な生活習慣の意識づけを目的とした活動を積極的に行い、生徒一人一人が健康に気を付けるように取り組んでいく。 生徒に健康の大切さを学ばせるために、「保健だより」や「食育だより」・「給食だより」などの資料を定期的に発行し、健康意識の向上を図る。 食に関する知識を身につけるため、学校給食を生きた教材とし、技術・家庭科（食生活と自立など）など関連する教材と連携し、指導を行う。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの「毎朝、朝食を食べている」において、「よくあてはまる」と回答する生徒の割合を 80%以上にする。 （前年度 70.0%） ➡74.0% 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①【基本的な方向 5 健やかな体の育成 体】	<ul style="list-style-type: none"> ・目標としていた3項目以上大阪市平均を上回ることができなかった。2年生が校内では運動能力が低いわけではないが、体力を向上させられるよう授業や体育的行事の強化や体育委員の意識づけをおこない、生徒の心身共に成長させていく。 ・「運動やスポーツをすることが好き」において、「よくあてはまる」は 48.1%と、昨年度よりもやや下回ったが、肯定的な回答は 80.5%と、昨年度よりも 2.5 ポイント向上した。
取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成 体】	<ul style="list-style-type: none"> ・「薬物乱用防止教室」や「いのちの教室」などで外部講師を招いたり、様々な検査前に検査項目、内容の意識をさせたりしたが、「よくあてはまる」という回答は 39.6%であった。しかしながら、肯定的な回答は 84.4%になるので健康について気にしていない訳ではないことが伺える。また、with コロナの教育活動を継続してくため、健康、感染予防をより意識させる。
取組内容③【基本的な方向 5 健やかな体の育成 体】	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や救命救急講習などを通して、命の大切について考えたり、災害時にどのような行動をとりまず自分を守るために何をするべきかを考える機会となった。また自らがすすんで行動できる意識をもたせることができた。
取組内容④【基本的な方向 5 健やかな体の育成 体】	<ul style="list-style-type: none"> ・「毎朝朝食を食べている」において「よくあてはまる」が 74%まで上がり、前年度よりは向上したが、今年度の目標まではいかなかつた。 ・食に関して、様々な角度から意識づけをさせる事で生徒の生活習慣も少しずつではあるが向上している。
次年度への改善点	
取組内容①【基本的な方向 5 健やかな体の育成 体】	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上、心身ともに成長させるためにはまずは生徒への意識づけや取組内容の改善が必要である。基本的な生活習慣（運動・食事・睡眠）を身に着けさせるために様々な分野から取り組む必要性がある。
取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成 体】	<ul style="list-style-type: none"> ・「いのちの教育出前講座」は予算の関係上、全学年で行う事が厳しくなってきているので、各学年で取り組み内容を再編し、講師の先生以外にも養護教諭を中心に取り組んでいく。
取組内容③【基本的な方向 5 健やかな体の育成 体】	<ul style="list-style-type: none"> ・命を守る取組では、救命救急講習会の生徒向けは拡大をしていくとともに、教職員へは、年度当初に生徒の緊急対応（救急搬送等）などの研修を行う。
取組内容④【基本的な方向 5 健やかな体の育成 体】	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度行った生徒向け生活アンケートによると、朝食欠食の理由として「朝食を食べるのがめんどくさい」「朝食が用意されていない」という回答もあったことから、まずは生徒への意識づけや取組内容の改善が必要であるとともに、保護者にむけての啓発も必要である。

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（中学校）

- ・学習用端末を活用した家庭学習を2週に1回以上実施する。
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を25%以上にする。
→33.3%

(前年度 24.14%)

A

学校の年度目標

- ・保護者アンケートにおける、「学校はICT機器を活用した教育に取り組んでいる」の項目について、最も肯定的に回答する生徒の割合を前年度以上にする。

(前年度 23.1%)

→30.8% (肯定意見 82.1%)

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進 知】 <ul style="list-style-type: none"> ・教員の授業力向上に向けて、学習者用端末を活用するための校内研修を実施し、授業や家庭学習におけるICT機器の補完的活用法を研究する。あわせて、ICT機器の整備と効率的な運用を図る。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートにおける、「<u>学校はICT機器を活用した教育に取り組んでいる</u>」の項目について、<u>最も肯定的に回答する生徒の割合を前年度以上</u>にする。 	A
→30.8% (肯定意見 82.1%)	
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり 管】 <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度検討した、「働き方改革大正中央2022」について実践していくことで、教職員の時間外勤務時間の削減に努める。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・「<u>学校園における働き方改革推進プラン</u>」に掲げる教員の勤務時間に関する<u>基準1を満たす教員の割合を25%以上</u>にする。 →33.3% 	A
取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進 管】	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページや学年だよりなどを通して、学校の取り組みを保護者・地域へ広く発信していく。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートにおいて「<u>学校は、教育方針や教育活動を、学校ホームページや学年だより等でわかりやすく伝えている</u>」において、<u>最も肯定的な回答を50%以上</u>する。 →45.5% (肯定意見 96.2%) 	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①【基本的な方向 6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進 知】	・保護者アンケートにおける、「学校はICT機器を活用した教育に取り組んでいる」の項目について、最も肯定的に回答した保護者の割合は30.8%であった。前年度よりも 7.7ポイント上昇 した背景には、 日々の生徒の学習者用端末の持ち帰りと端末を用いた家庭学習に取り組む様子を保護者が目にする機会が増えたこと にあると考えられる。
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり 管】	・働き方改革プロジェクトで議論した課題の解消に向けて、①校時の見直し、②職員朝礼の廃止、③完全下校時間の設定、④退勤時間の設定、⑤校務分掌表の見直し（新たに健康教育部の設置）、⑥会議・委員会の実施方法の見直し等、改革を進めた結果、教職員の超過勤務時間の削減に取り組むことができた。また、研修会を実施することで、教職員の意識の改革も行うことができた。
取組内容③【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進 管】	・学校ホームページは教職員も協力してくれたおかげで、稼業日中は少なくとも3記事を掲載することができ、学校の取組や部活動の様子を広く発信することができた。 ・今年度より取り入れた「ミマモルメ」についても、 99%の登録 により、緊急時等における保護者への連絡ツールとして活用できている。
次年度への改善点	
取組内容①【基本的な方向 6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進 知】	・次年度も引き続き、学習者用端末を活用した授業研究と家庭学習の充実を図ることで、より一層のICT機器を活用した教育を推進していくことができると思われる。そのためにも、 持ち帰りによる破損・故障の増加に伴う学習者用端末の管理・整備を徹底 することが重要である。
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり 管】	・部活動指導員の配置している部活動については、 休日の活動を指導員に任せる など、改善は必要である。 ・ 一部の行事等が教職員の負担 となっているところがあるので、 教育課程全体の見直し が必要である。
取組内容③【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進 管】	・保護者・地域の願いを受け止めつつ、withコロナの観点から学校行事等を見直し、精選を行いながら学校教育に取り組む必要がある。